

委員会県内視察の記録

委員会名：人口減少社会課題対応特別委員会

| | |
|--------|--|
| 視察の目的 | 人口減少社会課題対応特別委員会 付託事項調査 |
| 期間 | 令和6年8月8日(木) |
| 委員参加者 | 委員長 和田 篤夫 副委員長 藤曲 敬宏 委員 勝俣 昇 委員 小沼 秀朗 委員 曳田 卓 委員 盛月 寿美 副委員長 市川 秀之 委員 佐地 茂人 委員 中沢 公彦 委員 杉山 淳 委員 山本 隆久 |
| 当局の随行者 | 政策推進局総合政策課 課長代理 弓桁 一泰 |
| 視察先の概要 | 県内物流業の状況調査 詳細は、別添「視察の概要」のとおり。 【視察先】 1 株式会社丸総（榛原郡吉田町） 2 株式会社ハマキョウレックス袋井メディカルセンター（袋井市） |

視 察 の 概 要

8月8日(木)

●株式会社丸総 (榛原郡吉田町) 10:10 ~ 11:30

< 応対者 >

| | | | |
|--------|----------|----|----|
| 株式会社丸総 | 代表取締役社長 | 橋口 | 智規 |
| 〃 | 管理事業部長 | 高木 | 美彰 |
| 〃 | 情報システム室長 | 岩澤 | 克己 |
| 〃 | 運輸事業部長 | 黒江 | 忠義 |

1 概要

(1) 会社概要

- ・従業員：210名
- ・県内に3拠点、南関東の川崎に3拠点、千葉の浦安に1拠点、愛知の東海市に1拠点あり、近畿や北関東にも拠点の設置を予定している。
- ・「運送事業」「倉庫事業」を中心に整備事業、パレット洗浄、メガソーラー事業と多岐に渡る事業を展開。
- ・ダブル連結トラックの導入や物流の効率化、省人化を目指して推進する協業の枠組み「NLJ Plus+」に参画し、残業規制強化によって輸送力低下が懸念される「物流の2024年問題」の課題解決に取り組む。

(2) DXの推進

- ・経済産業省から本年6月1日にDXの認定企業の認定として受けた。
- ・DX推進の体制づくりとして、社長をリーダーとして、DX推進室2人で、各部署と外部の専門家を交えた取組を始めている。
- ・「属人化」から「集合知」へということで、現場の人間しかわからないことをまず可視化し、業務フローを洗い出している。
- ・将来的には、自前の受注データ、配車指示、売り上げについて、顧客と連動した形のシステムとして提供しようと、本年からスタートし、3カ年計画で取り組んでいる。

(3) 2024年問題への対応

○株式会社丸総

- ・日野自動車が発立したNEXT Logistics Japanが運営する「NLJ Plus+」に参画し、異業種の荷を混載したダブル連結トラックの運行をしている。
- ・丸総の本社では、大阪から運んできた荷物を下ろして、関東に行く荷物に積み替えている。併せて、運転手を交代している。

○NLJ Plus+

- ・日本中の荷物に関わる情報と運行に関わる情報を蓄積・可視化し、蓄積された情報を元に量子コンピューティング・AIで分析・計算するシステムを使って、業種を超

えた日本中の物流をリアルタイムで把握することで全体最適化、効率的な物流を行っている。

- ・全長 25mのダブル連結トラックにより大型トラック 2 台分の物量を運搬。
- ・シェアリングサービスにより、西宮のクロスドックセンター（荷物をコンテナに積んだまま管理）と相模原のクロスドックセンターの真ん中にある浜松で運転手を交代している。
- ・2019 年 12 月に事業が始まり、トラック保有台数は 13 台、運んだ荷物が 176,000 トン、輸送力は通常の業界平均と比べ 250%。積載率は業界平均 38%に対して、N L J P l u s +は 65%の積載率で運行している。
- ・省人化の効果として 1 人のドライバーで 2 台分運べるため、約 8,300 人、約 42%の人員削減ができています。
- ・CO2 低減の効果として 2024 年 3 月末で約 1,700 トンの削減をしています。

2 質 疑

Q：トラック運送業者は、元々時間外ありき、手当ありきで賃金体系が組み立てられてきたが、時間外規制が進んでいる中で、人材確保について工夫していることがあるのか。

A：この業界では荷物 1 個いくらかという賃金体系が多いが、早くから月給の固定給制に取り組んでおり、安定した給料を支給している。走らなければ給料が出ない業界ではあるが、2024 年以前から 2024 年問題を見越した改善をして人材の確保に取り組んでいる。

Q：帰りのトラックの荷物は空（から）であることが多く、空で運ぶのなら安くても荷物を積んで運んだほうがいいということで、車を持たないで手配だけで稼いでいる「水屋」に、現状はどのくらいの荷物を頼っているのか。

A：「水屋」の存在により多重下請け構造になり、運賃にダンピングが起こっている原因と言われている。行きの荷物は持っているが戻ってくる時に積む荷物が無い場合、どうしても「水屋」に頼ると足下を見られ、運賃をたたかれるところがある。状況を脱却するため、直接の荷主との交渉を積極的に進めている。

Q：ケミカルのシェアはどのくらいの割合か。

A：売り上げの約 3 割がメディカル。メディカル以外は日雑系、飲料も含めてレトルト品、加工食品が多いが、我々が運賃改定をしても、一般貨物の業界では改定が進まない。メディカルやケミカルは、一般貨物業界のものよりもリスクが高いため運賃設定も高くなる。メディカル、ケミカルの割合を増やす戦略を取っている。

Q：会社のイメージがいいが、求人の募集戦略はどのようなものか。

A：ブランディングに心がけている。情報発信も意図的にやっている。丸総がどんな会社なのかと検索した時に一般的な運送会社よりはケミカルもメディカルも専門的にやっている会社というのでは印象が全く違う。

Q:おそらく運転好きな人は丸総に行って連結トラックを運転してみたいという人もいると思うが。

A:特殊な技術を取得しないと乗れないので給料も高い。ダブル連結トラックを取り扱うのは県内には1社しかない。ダブル連結トラックに乗る資格、教育を社内でできる利点がある。

< 応対者 >

株式会社ハマキョウレックス 執行役員管理本部長兼経営企画室長
竹内 義之
管理部総務部次長 石塚 智規
中部支社第二営業部次長 赤堀 真矢
中部支社第二営業部袋井メディカルセンター長
太田 俊之

1 概要

(1) 会社概要

- ・1971年2月設立。
- ・運送事業から出発したが現在、売り上げ構成は98%が物流センター事業、2%が運送業となっている。
- ・物流全般を包括的に請け負い（物流業務のアウトソーシング）、物流費圧縮や業務効率化を実現する3PL（3rd Party Logistics）企業。

(2) 袋井メディカルセンターの概要

- ・クライアントは、医療機器メーカーのコヴィディエンジャパン。コヴィディエンジャパンの物流オペレーションを袋井センターで行っている。
- ・2011年3月28日に開設され、トータル5,500坪、二階建ての建物となっている。
- ・医療機器を取り扱い、建物は全館空調管理で常温は5～30度、湿度20～90%。
- ・従業員数は、正社員16名、パートタイマーが165名。

○コヴィディエンジャパンの概要

- ・医療メーカーのメドトロニックグループに入っている外資系の医療機器メーカー。メドトロニックグループは、グローバルの医療機器メーカーの中でも世界トップの3兆円企業。
- ・主に外科手術、呼吸器関連の製品を取り扱い、がん治療でがんの部位を切除するステープラー、開腹手術した時に縫合する機械、人工呼吸器、内視鏡カメラなどを取り扱っている。

(3) 袋井メディカルセンターの物流データ

- ・在庫の数量は約1,000万ピースで、在庫金額は40億円程度。
- ・海外の製造工場で製造された製品を海上コンテナもしくは空輸にて入荷。物量は、1日当たり70～100パレット位。
- ・佐川急便、日本通運、ヤマト運輸等を使って全国に出荷している。
- ・出荷先は、全国約2,500の医療機器のディーラー。医療機器ディーラーに納品後、ディーラーの営業マンが各病院へ納品。

(4) 袋井メディカルセンターの特色

- ・センターには、保管効率を上げるため、1階から2階まで吹き抜けの1,200パレット収容可能な自動倉庫を設けていて、保管と1階から2階への輸送を兼ねている。

- ・海外からの製品には日本語表示がないので、2次検査で日本の市場に出荷させるための日本語が入った「法定薬事ラベル」を貼り付けるための作業をしている。
- ・従来、コヴィディエンジャパンはラベル貼り付けを印刷所に外注していたが、袋井メディカルセンターが物流を受け入れた時に内製する提案を行い、現在はラベル貼り付けも併せて請け負っている。
- ・センター全体の半数に当たる約80名から90名が、基本的に3名から4名くらいのグループとなって製品を検査している。
- ・出荷の際に使用するデジタルピッキングシステムはオートメーション化されており、この機械を使うことによって、これまで10人必要だった作業員を2、3名に抑えることができている。

2 質 疑

Q：入荷エリアの作業の自動仕分けを検討したことはあるのか。

A：荷物の大きさが様々だったり、海外の色々な国から入ってくるため、規格が統一されていないのでコンピューター制御で自動仕分けすることは難しい。最終的には人の手で仕分けしている。

Q：製品管理はシステム化されているのか。

A：全てシステム化されている。いづどこに何が入ったか全部管理されている。パレットにはバーコードが貼られていて、製品を積む時にバーコードを読んで、いつ、何の製品をここに積んだという登録を全部している。

Q：検査の内容は

A：内容検査においては、部品が必ず揃っているかや髪の毛が入っていないか、汚れがないか検査をしている。

Q：壊れているものはどのくらいの割合か。

A：1割弱ある。例えば髪の毛が梱包の中に入っているのが普通にある。これは日本の基準だとアウトであるが海外のメーカーに「髪の毛が入っている」と伝えたと、滅菌処理されているので問題ないと返事がある。そのくらい日本と考え方が違っている。

Q：検査室の機械化の検討はしたのか

A：識別管理を検討したことがあるが、費用対効果の面や、最終的には人間の目で見ることが一番正確であることから導入を見送っている。

Q：検査の過程で不良品はあるのか

A：不良品は1次検査、2次検査で発生するがどちらかというと非常に多い。海外から入ってくる基準と日本の受入基準では相違があり、日本の受入基準のほうが非常に厳しい。海外の基準では全然大丈夫ではないかという製品が日本では受け入れられない。

しかし、送り返すコストを考えると不良品は廃棄するしかない。

Q：作業者の帽子の色で習熟度がわかるのか。パートの時給やギャランティにも影響する
のか。

A：反映させている。パートのレベル分けをしていて、新人、中堅、ベテランの方という
形でそれぞれ教育のカリキュラムがあり、テストに合格すると帽子の色が変わる。時
給にも反映しており、作業者のモチベーションを上げるために取り組んでいる。

Q：人手不足の影響はあるのか

A：人手不足の影響がないように年中募集をしている。

Q：外国人雇用はあるのか。

A：日本語を話せる、読めるという作業が求められるのでそれをクリアしなければならない。
クリアできれば採用は可能と考えている。

Q：実際に採用した外国人はいるか

A：採用した外国人はいる。全く断っているわけではない。現場で作業をさせてみて問題
なければ採用はもちろん進める。単独作業ではなくグループ作業になるので、コミュ
ニケーションを取ることができれば外国人でも問題ない。

Q：2024年問題で物流のシステムが変わってきていると思うが、輸送において今までと
どんなことが変わったのか。

A：昨今、物流で変わったことは、荷受けに入ってくるトラックの荷下ろしでドライバー
の待機時間を短縮するような荷下ろしをしている。出荷は、今は当日受注したものは、
基本的には日本全国翌日午前に出荷しているが、コヴィディエンジャパンからも見直
しする提案があり、運送会社のことも考えて、もう少しゆとりを持った出荷にできな
いか検討し始めている。

Q：配送業務を複数社に分けたのはどういう理由か。

A：配送業務は、エリアごとで分けている。日本通運は、北海道、九州、沖縄に向けて、
日通航空で輸送している。佐川急便については、飛行機を使わない地域で利用してい
る。ヤマト運輸は一部限定になるが、ヤマト運輸の営業所止めで発送し、コヴィディ
エンジャパンの営業マンが営業所に取りに行くと病院に持って行く形を取っている。
ヤマト運輸は他に比べて営業所をたくさん持っているのでそこをうまく使っている。

Q：検品など、人でないととてもできないような所のDX化を考えているのか。

A：ここでは導入していないがRFIDという電子チップがあって、ユニクロとかGUで
無人レジに商品を入れると一瞬で料金が出るシステムがある。タグの中に商品の値段、
形状、色、サイズの情報が全部入った電子チップが入っていて、電子チップを無線で

一瞬で読み取っているのがRFIDと呼ばれている。アパレルの商品はRFIDを使った商品の検品や商品の仕分けが出始めている。このセンターにおいては、取り扱っているのが医療機器ということもあってRFIDは入っていないが今検証中なのでうまくいけば導入を考えている。

Q : DX化だけでも対応できないところがあると思うが、少子化が常態化すれば物は同じように運べなくなる。働く時間が少なくなれば当然時間がかかる。そうした中で物流業界では今までどおりやることは難しいと感じているが、ある程度時間がかかっても仕方ないとの思いがあるのか、それでも今までと同じようにスピード感を持ってやろうと努力されていくのか、将来についてどのように考えているのか。

A : 一部機械化しているが、結構人も働いている。今は人が少なくなっているが、機械化を進めていくことができれば、出荷は今までどおりやっていくのが当たり前のことと思っている。どうしても機械化が技術的にできない場合を除き、技術と価格の帳尻がつけば顧客の希望通りにやっていきたいと思っている。コストや技術が追いつかない場合は、余裕を持った出荷形態とする。なるべく今までどおりやっていくことが良いと考えている。

Q : 機械化すればするほど機械に頼らざるを得なくなる。仮に電気が停まると顧客に大きな迷惑がかかり、今まで以上に危機管理が重要と考えるがどのようにお考えか。

A : 医療機器が必要な時に電気が停まることもあり得る話だと思う。太陽光や蓄電池で最低限動かせる体制を取っていく。

8月8日(火) 10:10 ~ 11:30

●株式会社丸総 (榛原郡吉田町)



8月8日(火) 13:00 ~ 14:30

株式会社ハマキョウレックス 袋井メディカルセンター (袋井市)

